

認知症コーディネーターの概要

「認知症コーディネーター」とは

地域の資源を把握し、関係機関相互のネットワークを活用しながら、特に初期の対応や生活環境の変化（入退院時等）の際などに、相互の連携を円滑に進めていくために、専門職に対する助言等支援を行う。

活動内容

- ・ 支援が難しいケースについて、介護支援専門員等専門職、関係機関・施設（職員）への相談・助言、必要なサービスへの橋渡しなどの支援を行う。
- ・ 地域の連携の中心となって、関係機関・施設等や地域住民まで含めたネットワークの構築を行い、その機能的な活用を図る。
- ・ 認知症に関わる専門職が、お互いの専門性を理解する場づくり（事例検討、カンファレンス、多職種協働研修等）を行う。
- ・ 医療と介護をはじめとする地域資源情報の把握・蓄積及び情報提供や、地域へ啓発活動を行う。
- ・ 必要に応じ、地域ケア会議（地域包括支援センターまたは市町村が主催し、設置・運営する「行政職員をはじめ、地域の関係者から構成される会議体」）へ参加する。

養成の方法

県が定める研修プログラムを受講することにより、コーディネーターとして活動していただく。なお、受講対象は、認知症の人と家族の支援及び地域生活を支えるための地域連携体制づくりに従事している方で、認知症に関する一定の専門知識と実務経験を有する者とする。詳細については、別紙「千葉県認知症コーディネーター養成研修募集要項」を参照のこと。